

令和５年度 第２回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 令和６年２月５日（月） 午後３時～午後４時２０分

場 所 京都市生涯学習総合センター ３階 会議室

出席委員 大林 照明 委員
金枿 純子 委員
久保 泰雄 委員
豊田まゆみ 委員
日吉 肇 委員
舩津 雄貴 委員 五十音順

欠席委員 日比野和雅 委員
堀 久美子 委員 五十音順

傍 聴 人 なし

１ 開会

- (１) 酒崎所長の挨拶
- (２) 摘録署名人に日吉委員長を選出

２ 議事

- (１) 令和５年度視聴覚センター事業について（中間報告）
「令和５年度視聴覚センター事業報告」の説明を行った。
- (２) 全国の視聴覚センター等の現況報告
「全国の視聴覚センター等の現況報告」の説明を行った。
- (３) カリキュラム開発支援センター「教育ＤＸの取組」紹介
「カリキュラム開発支援センター「教育ＤＸの取組」紹介」の説明を行った。
- (４) 視聴覚センターの今後のあり方
上記(１)～(３)の議事に関する説明を基に意見交換を行った。

〔委員からの主な質問や意見など〕 （○は委員、・は事務局）

- 資料「令和５年度視聴覚センター事業実施状況」の１０ページ「その他共済事業」にある「ＮＨＫ杯全国中学校放送コンテスト京都大会」には、京都府下の

中学校から約 100 名が参加した。各部門から 6 名が全国大会へ出場し、優秀な成績を収めた。昨日、京都市中学生アナウンスコンクールを開催し、今年度は人数制限を解除したことで、希望する生徒全員が参加できた。

- 資料「令和 5 年度視聴覚センター事業実施状況」の 7 ページ「施設利用状況」にある「デジタルカメラ利用状況」及び「ビデオカメラ利用状況」について、利用対象者、利用方法等について教えていただきたい。
 - ・ デジタルカメラは、コンパクトなものを貸出している。学校の活動ではスマートフォンを持ち込めないで、中学校の修学旅行でのデジタルカメラの貸出が多い。しかし、屋外で使用するため、落下などによって壊れることがあり、台数が減ってきている。さらに、写真や動画撮影はスマートフォンの利用が主流になり、デジタルカメラの生産を中止したメーカーもあるため、買い足せないことが課題である。
- 貸出しは学校対象ということで、一般貸出はしていないか。
 - ・ 一般貸出はしておらず、学校の団体貸出のみである。
 - ・ 学校にはタブレットが行き渡っており、社会的にデジタルカメラのニーズも下がっている状況で、学校からのニーズも少ないのであれば、修学旅行など校外学習向けの安価なタブレットなど別のものに替えていくような幅広い観点で考えていく必要がある。
- デジタルカメラを買い足していく予算は措置されていると思うが。
 - ・ デジタルカメラ購入のための予算化がよいか、また、実施事業を改めて精査し、ニーズがあるものに予算を付け替えることなどを積極的に考えていく必要がある。視聴覚センターの事業は、教育委員会が生涯学習振興財団に対して市民や学校園が必要とする業務を委託し、予算を支出する立場にある。ニーズのない業務は委託から外し、新たに必要な業務を委託することができる。
- 学校現場では、校外学習で撮った写真を持ち帰って、学習したことをタブレットで発表することが主流であり、スマートフォンの貸出があるとありがたい。修学旅行では荷物が多い中で、重量もあるタブレットの活用は難しい。昨年度はデジタルカメラの貸出が他校と競合して借りられなかった。デジタルカメラを持っている家庭がなく、学校の活動にスマートフォンを持ち込ませる体制もとれていないため、旅行業者に班で 1 台のスマートフォンを用意してもらった。
 - ・ 解像度のこだわりはあるか。小型のタブレットでもよいか。
- 発表に使用できるものであればよい。

- ・ 必要があるものは予算を確保していくべきである。なかなかニーズがわからない中で、今までどおり業務を進めてきた点は反省したい。カリキュラム開発支援センターのDXスタジオは、あまり予算をかけずに職員が手づくりで開設してこられた点も参考にしたい。今後、壊れるリスクを踏まえた形で小型軽量のタブレットの導入も検討したい。
- ・ 学校の発表時期や卒業式前になると、DVDのコピー機が教員によく活用されているが、老朽化によって今後買い替えが必要なきには、予算が確保できるかわからない。

- DVDのコピー機があることは、広く知られていないのではないか。
 - ・ 教員同士のつながりで一定知られている。
- 周知が足りていないのではないか。
 - ・ 一応周知はされているが、より周知されると活用が多くなりすぎる面は心配。
- 日程調整で、活用が重ならないようにできないか。
 - ・ 総合教育センターにも機器があるので、貸出の協力をしていただきたい。
 - ・ 総合教育センターでは、総合教育センターや教育委員会の所属内での活用を優先しており、貸出しはしていない。
 - ・ 物品のことだけでなく、視聴覚センターの運営にも関わる話なので、事業見直しも含めて必要な機器のための予算を捻出することを考える必要がある。

- ・ 幼稚園では、こうしたDVDのコピーのニーズはあるか。

- DVDのコピーは業者に依頼している。DVDのコピーについても、私立幼稚園は、公立のように一定の基準があるものでもなく、各園で考えて取り組んでいる。就学前からタブレットなどの機器の正しい使い方を教える必要があるが、教員の研修の機会がなく、園長の考えも昔のままである。生涯学習総合センターをどのように利用するのがよいか情報をいただきたい。私立幼稚園は、取組が浸透しはじめると広まっていくのが早い。

- 孫の家庭学習の様子を見ていると、小学校では、感想文をタブレットで作って担任に送ったり、中学校では、パワーポイントの発表で動画を取り入れたりというように、ここ3年で学習環境が大きく変化したことを感じている。住んでいる行政区から生涯学習総合センターには行きにくいので、スマートフォンで視聴できる映像などがあればよい。

- ・ 生涯学習総合センターでは、フリーWi-Fiが一部の場所にしか入っていない。

しかし、利用者からタブレット使用のニーズもあるため、次年度以降にWi-Fiを整備すること計画し、アクセスポイントの取付位置など現地調査を行っている。あとは予算措置を待つだけである。今後、映像作品で著作権がクリアできるもの

などがあればオンラインで視聴できる環境整備を検討していきたい。

- 人権啓発映画は、かつては同和問題を扱った作品が多かったが、今はどのような問題に焦点を当てているのか。
 - ・ 今回は同和問題を扱った作品はなかった。認知症、新渡日の子ども、LGBTQ を扱った作品もあったと思う。
- 様々な人権問題の作品を増やしてほしい。
- コロナ禍のときのカリキュラム開発支援センターでの研修では、タブレットの活用が促進されていたが、コロナ禍が終わってからは、学校現場ではタブレットをどのように使っていけばいいのかという空気に変化している。カリキュラム開発支援センターが各校を訪問しているのは希望制か。
 - ・ 学校の依頼を受けて打合せをし、派遣人数などを決めている。学校に配分されたタブレットが故障などで十分に機能していないことがある。教員の授業での活用にも意識の差があり、授業時間をすべてタブレットに頼るのはよくないと思っており、子どもたちには、コミュニケーションやディスカッションを通じ、人とのやり取りの中で高め合うという意識を育てたい。今後、タブレットの有効的な使い方を研究して発信しようとしているが、なかなか全市に行き渡らないので四苦八苦している。
 - ・ 子どもが動画をじっと観ているだけのような、受け身の情報発信にはならないようにしていきたい。
- 動画があふれている中で、中学生は「ティックトック」のような短い動画、またそれに関連した興味のある動画だけを視聴する傾向にある。私たちは子どもたちの関心を高める動画を与え、その意図やねらいをわかるような子どもに育てる必要がある。
- 視聴覚センターとしての「生涯学習のねらい」をはっきりさせて、今ある財産を有効に活用しつつ、ニーズに合わせて財産を加えていくという二面性が必要である。例えばシネマ、音楽の貸出を、学童クラブ、放課後デイサービス、介護施設などに役立てられないか。また、AI と作曲アプリで自由に音楽が作れる講座があっても面白い。社会教育団体や自治会に対して、アピール動画の制作を呼びかけてみることもよいのではないか。
- 広報すると予約が重なることもあるが、広報していくなかでニーズを掘り起こすことができるのではないか。

学校と保護者間の連絡ツールがあるが、今は教育委員会から学校へ送るのは非常時のみとなっている。今後、大切な取組を家庭に広報していくことは活性化の

根本であると思う。費用対効果もある中で新しいニーズに応えていけばよい。現場でのDX化において、教員もハード、ソフトの使い方は概ね理解している。

京都市小学校長会臨時委員会教育DX推進委員会では活用状況を取りまとめており、その結果、各校がICT機器を活用し、児童に対し様々な支援を工夫して行っているが、その内容が全市に共有されていない実態も把握された。

DXを実際の子どもの学びにどう使っていくか研修を通じて学んでいくことが大切ではないかと皆さんの意見を聞いて思った。

閉 会